

2016年9月 個人投資家向けIRセミナー資料

株式会社 AOI Pro.

CREATIVE ALLIANCE
AOI Pro.

- ## 1. 事業環境と株式会社ティー・ワイ・オーとの経営統合について
- ①事業環境
 - 動画広告市場の動向-
 - ②両社の経営統合へ
 - ③統合の目的
 - ④統合効果
 - (1)TVCM制作を主とする広告映像制作事業
 - (2)デジタル関連事業の推進
 - (3)海外事業の展開
 - ⑤株式移転の要旨
 - ⑥共同持株会社の概要

- ## 2. 連結決算概要
- 【2016年3月期】
 - ・連結売上高・営業利益推移
 - 【2016年12月期1Q】
 - ・連結売上高・営業利益推移
 - ・「デジタルコンテンツ制作」の連結売上高推移
 - ・「AOI ASIA」の連結売上高推移
 - ・連結業績予想(上期)
 - ・通期連結業績予想(8/10修正)
 - ・配当予想(8/10修正)
 - 【参考資料】
 - ・連結損益計算書(2016年3月期、2016年12月期1Q)
 - ・顧客別連結売上高推移<広告制作事業>(2016年3月期、2016年12月期1Q)
 - ・四半期連結売上高推移<広告制作事業>

**事業環境と
株式会社ティー・ワイ・オーとの
経営統合について**

広告市場動向

1. 日本の総広告費は4年連続で増加し、成長軌道へ

TVCM制作費は横ばい (2015年 2,145億円 前年比0.2%減)

2. インターネット広告費は2005年以降継続して増加

インターネット広告制作費は増加 (2015年 2,400億円 前年比5.5%増)

3. 世界の総広告費 (2014年～2017年)

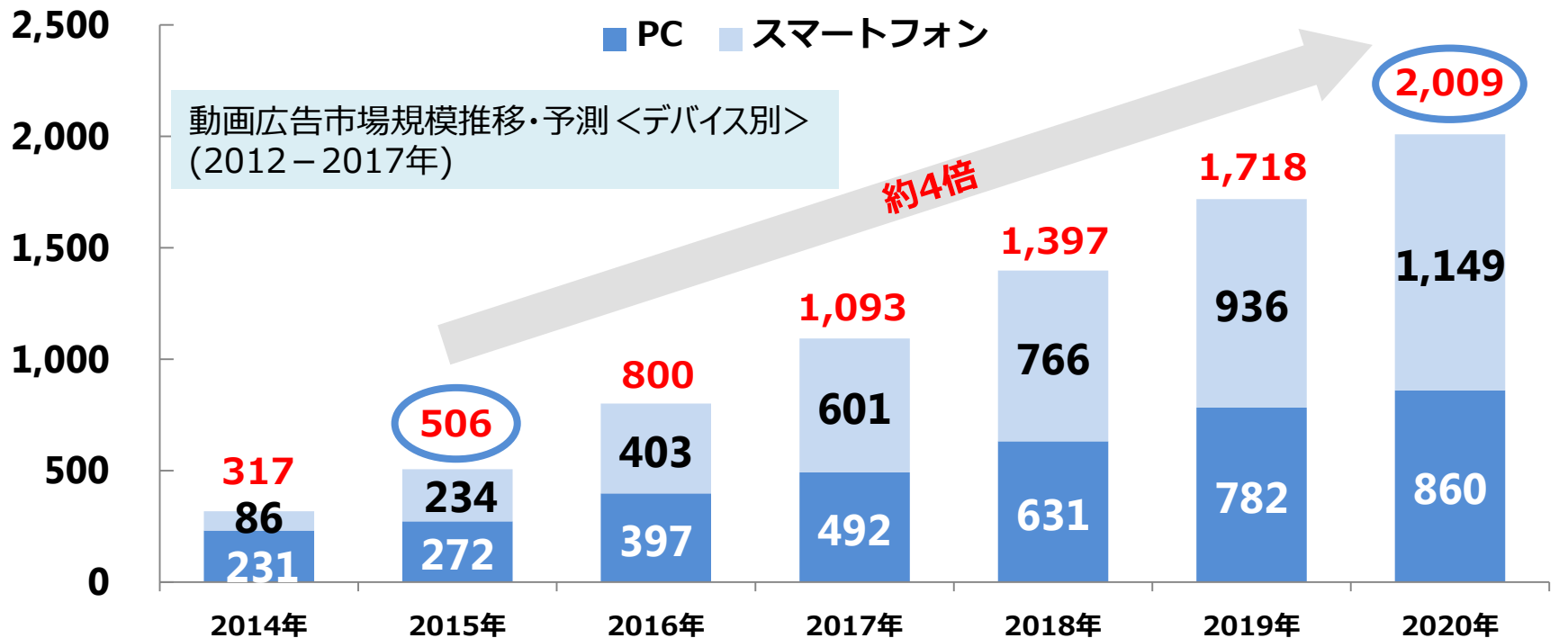
毎年 + 4%、アジアは毎年 + 5%

(1,2:電通、3:eMarketer等の発表より当社調べ)

- 広告市場は引き続き拡大傾向にあり、TVCMなど映像制作マーケットも堅調に推移
- 一方、デバイスの多様化により、インターネットを中心に映像に対するニーズは高まっている

① 事業環境 - 動画広告市場の動向 -

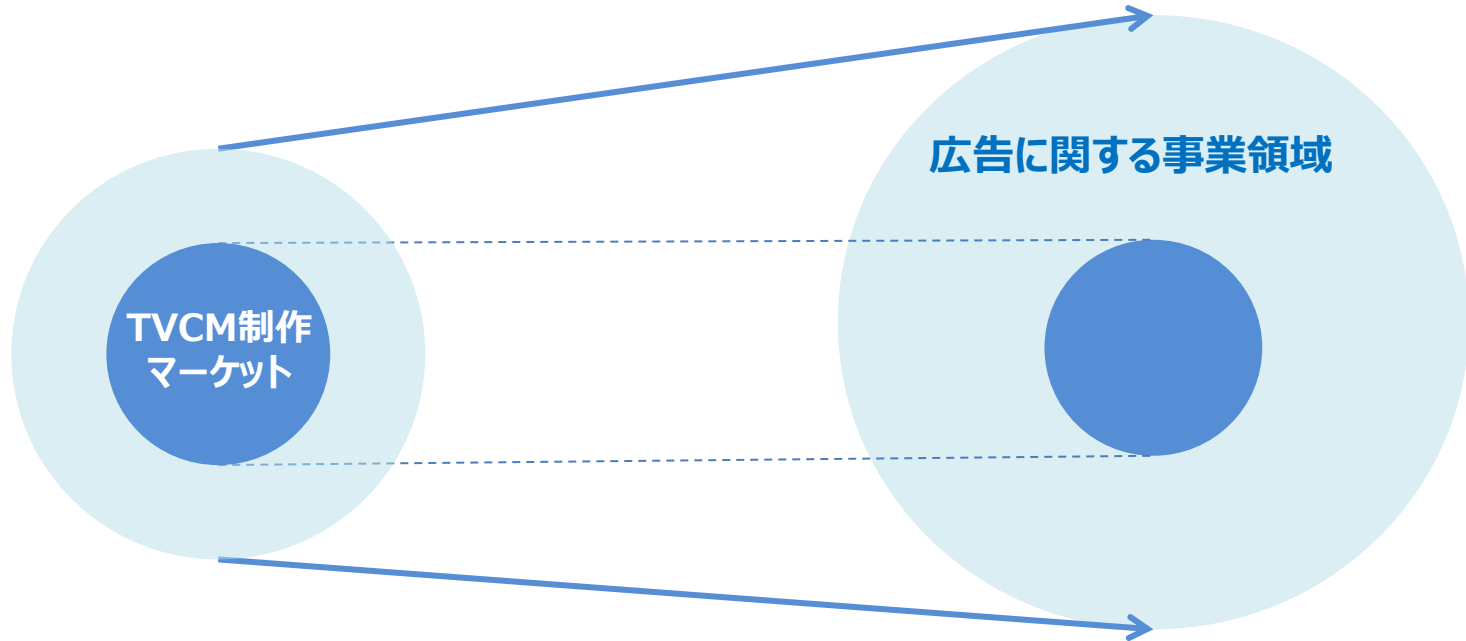
- 動画広告市場は、2020年には2015年の約4倍、2,009億円規模の市場と急拡大
- 配信先はスマートフォンのシェアが拡大



〈サイバーエージェント / シード・プランニング調べ〉Copyright © CyberAgent, Inc. All Rights Reserved.

① 事業環境

- インターネットを中心としたデジタルメディアの多様化
- スマートフォンやタブレット端末等に代表されるデバイスの多様化
- 通信速度やデータ解析、VR・AR等のテクノロジーの劇的な変化



AOI Pro. 1963年設立

TVCM制作業界最大手の一社

2015年3月 中期経営計画の取組み

- ・インターネット広告分野における動画コンテンツマーケティング事業に挑戦
- ・東南アジア・中国に広告映像制作ビジネスを展開

TYO
spirit of tokyo

1982年設立

TVCM制作業界最大手の一社

2013年9月 中期経営計画の取組み

- ・広告主との直接取引の営業体制を拡充
- ・PR事業も新たに開始予定
- ・アジアで広告会社のM&Aを実施

経営資源を結集、有効活用

「より大きなシェア」「より強い交渉力」「より強靱な資本」

業界をリードする新たなグループ企業を創設



先進的なビジネスモデルを構築

魅力あるサービスを提供



アジアNo.1の映像を主とする広告関連サービス提供会社

④ 統合効果

(1) TVCM制作を主とする広告映像制作事業



VRに関する当社の取組み

AOI Pro.とバスキュールがVRコンテンツ「VR Dream Match - Baseball」を共同開発、シリコンバレーで発表



「VR Dream Match - Baseball」

ヘッドマウントディスプレイを装着することによって、プロの舞台に立ち、プロに挑戦するという没入感の高い野球体験を人々に提供する

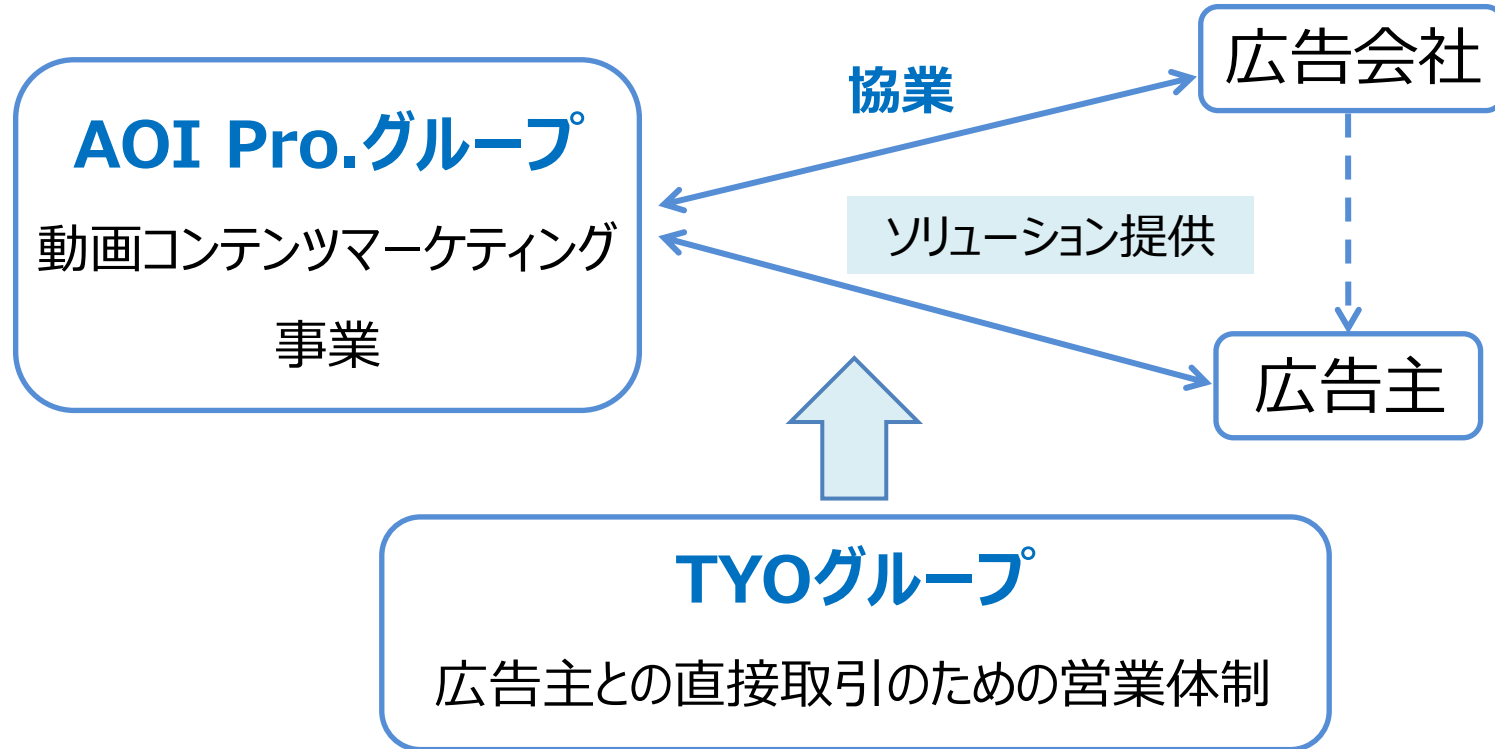
VR/AR事業で「映像とテクノロジーおよびデータの融合」を目指すAOI Pro.が初めて手がけるVRコンテンツ

AOI Pro.のVR/AR事業の今後

- VR/AR事業に本格的に参入していくことを見据え、グループ内に専門プロジェクトチームを設けるとともに、2016年8月にはテックイノベーションの中心であるアメリカ・カリフォルニア州のシリコンバレーにオフィスを開設
- 今後も積極的なアライアンスを実現し、AOI Pro.が持つ発想力・創造力に技術イノベーションを掛け合わせるにより「はじめての体験」を創造していく
- 2017年1月4日付を予定しているTYOとの共同持株会社の設立を機に、今後は両社の経営資源を集結することでVR/AR等の新たな映像制作技術の開発を積極的に進めていく

④ 統合効果

(2) デジタル関連事業の推進



デジタル関連事業への当社の取組み

Quark tokyoの始動

クオークトーカー

Quark tokyo

- 2015年12月に子会社化したナカミノ(株)の社名を「(株) Quark tokyo」とし、2016年4月に新たにスタート
- AOI Pro.グループにおける各領域のスペシャリストを集結し、動画を中心としたオンラインコンテンツの戦略立案、企画、制作、データ解析、メディア配信までのPDCAソリューションをワンストップで提供する体制を構築

サービスの例

最適なターゲットの選定からコンテンツ制作、広告配信までをワンストップで提供する動画マーケティングサービス「ターゲット・リーチセット」をリリース

● 約4億件のオーディエンスデータ※及びQuark tokyoが独自に実施したTV視聴やWEB動画に関するアンケート調査の結果データを掛け合わせて、広告主にとって最適なターゲットを選定することが可能に

● 選定したターゲットに合わせて「動画コンテンツの制作」から「動画広告の配信」までをワンストップで実施することを実現

※ オーディエンスデータとは、Cookieのデータを元に個人を特定しないかたちで収集した、ユーザーのWEB行動履歴や属性データのこと



すべての過程において、同一データを使用

データ分断なく、制作と配信の両軸での施策を最適化

④ 統合効果

(3) 海外事業の展開

- 両社の海外展開は機能重複がなく、アジアでの両社拠点を相互活用することで、両社のアジア戦略の加速化が可能



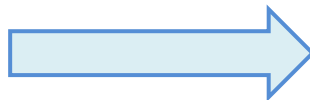
⑤ 株式移転の要旨

【現在】

【2017年1月4日～】



両社の株主に対し、
共同持株会社
AOI TYO Holdings(株)
株式を割当交付



発行済株式総数

13,334,640株 (2016年3月31日時点) 62,398,930株 (2016年4月30日時点)

AOI Pro. 1株に対し 1株
TYO 1株に対し 0.18株

2016年12月28日(予定)
東京証券取引所上場廃止日
(両社)

2017年1月4日(予定)
AOI TYO Holdings(株)
設立登記日／株式上場日

⑥ 共同持株会社の概要

商号	AOI TYO Holdings 株式会社		
所在地	東京都港区		
取締役	代表取締役	吉田 博昭	(現 TYO代表取締役社長兼グループ最高経営責任者)
	代表取締役	中江 康人	(現 AOI Pro.代表取締役社長執行役員グループCEO)
	専務取締役	譲原 理	(現 AOI Pro.代表取締役副社長執行役員グループCFO)
	常務取締役	上窪 弘晃	(現 TYO常務取締役 経営戦略本部長)
	取締役	八重樫 悟 (監査等委員)	(現 AOI Pro.取締役(常勤監査等委員))
	社外取締役	小久保 崇 (監査等委員)	(現 TYO社外取締役)
	社外取締役	高田 一毅 (監査等委員)	(現 AOI Pro.社外取締役(監査等委員))
	社外取締役	萩原 義春 (監査等委員)	(現 TYO常勤社外監査役)
資本金	50億円		
資本準備金	12億5,000万円		
決算期	12月31日		

連結決算概要

- 2016年3月期決算
- 2016年12月期 第1四半期決算

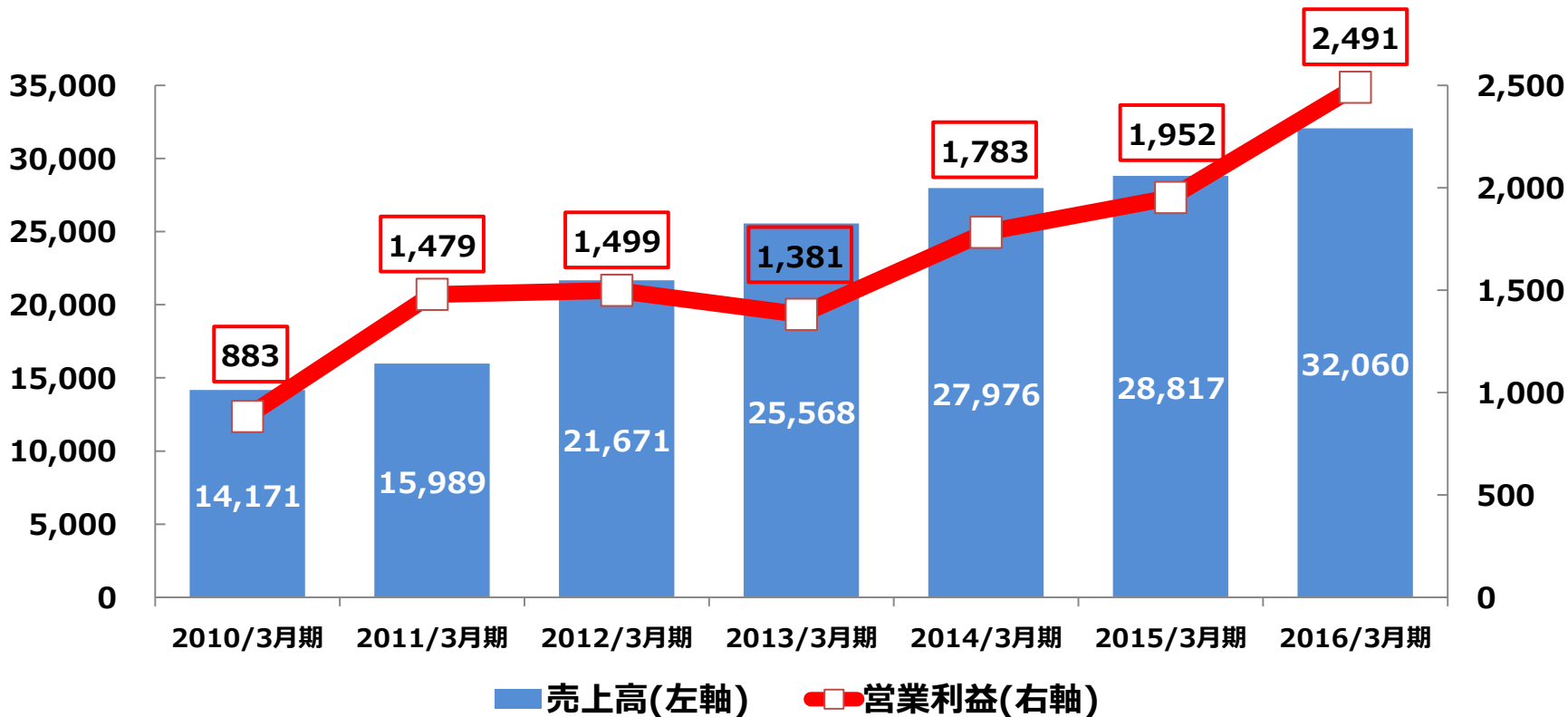
【2016年3月期】

連結売上高・営業利益推移

AOI Pro.

●リーマンショック後の6年間で、売上高・営業利益ともに2倍を大きく上回る水準に拡大

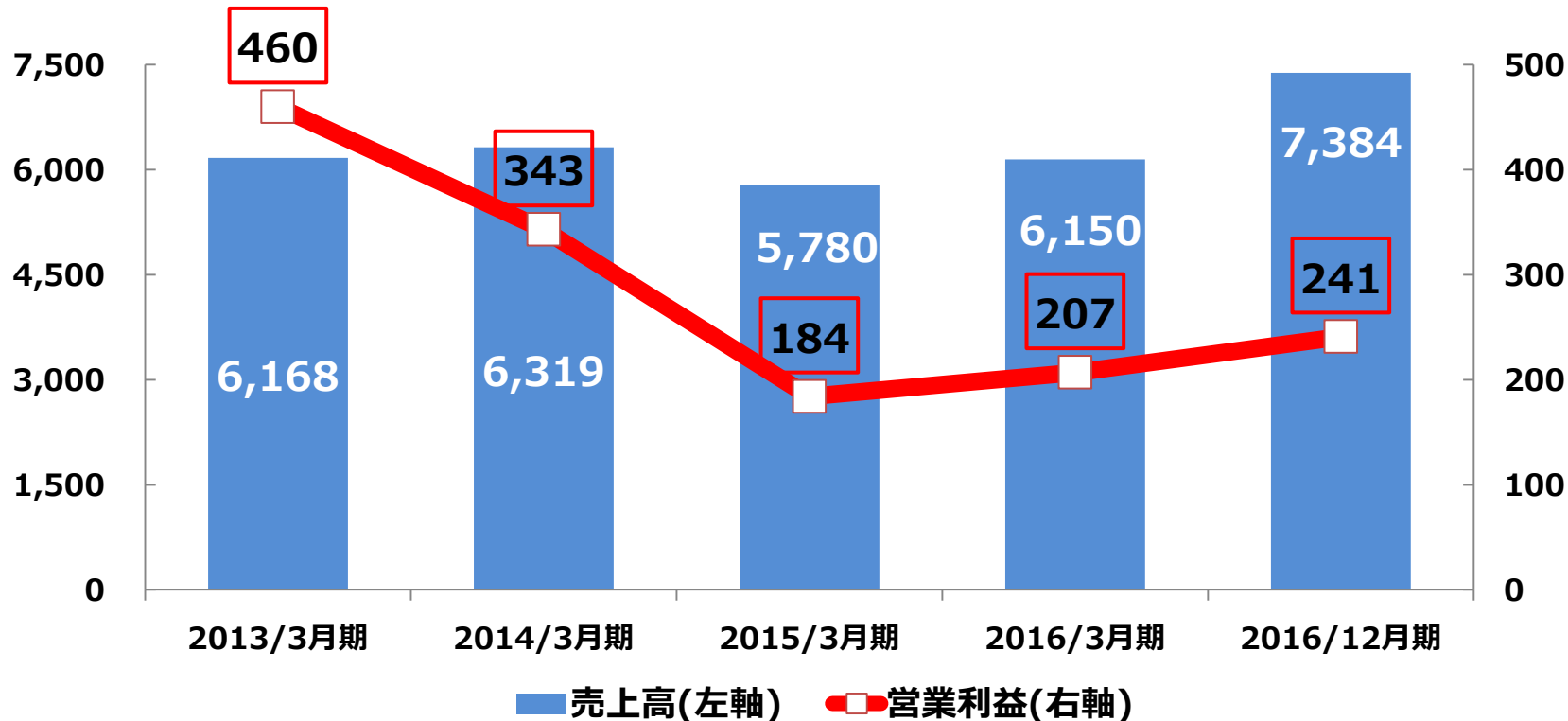
(単位：百万円)



連結売上高・営業利益推移

- 主力のTVCM制作に加え、成長領域と位置づけるデジタル関連の売上も増加し、売上高・営業利益ともに前年同四半期比増加

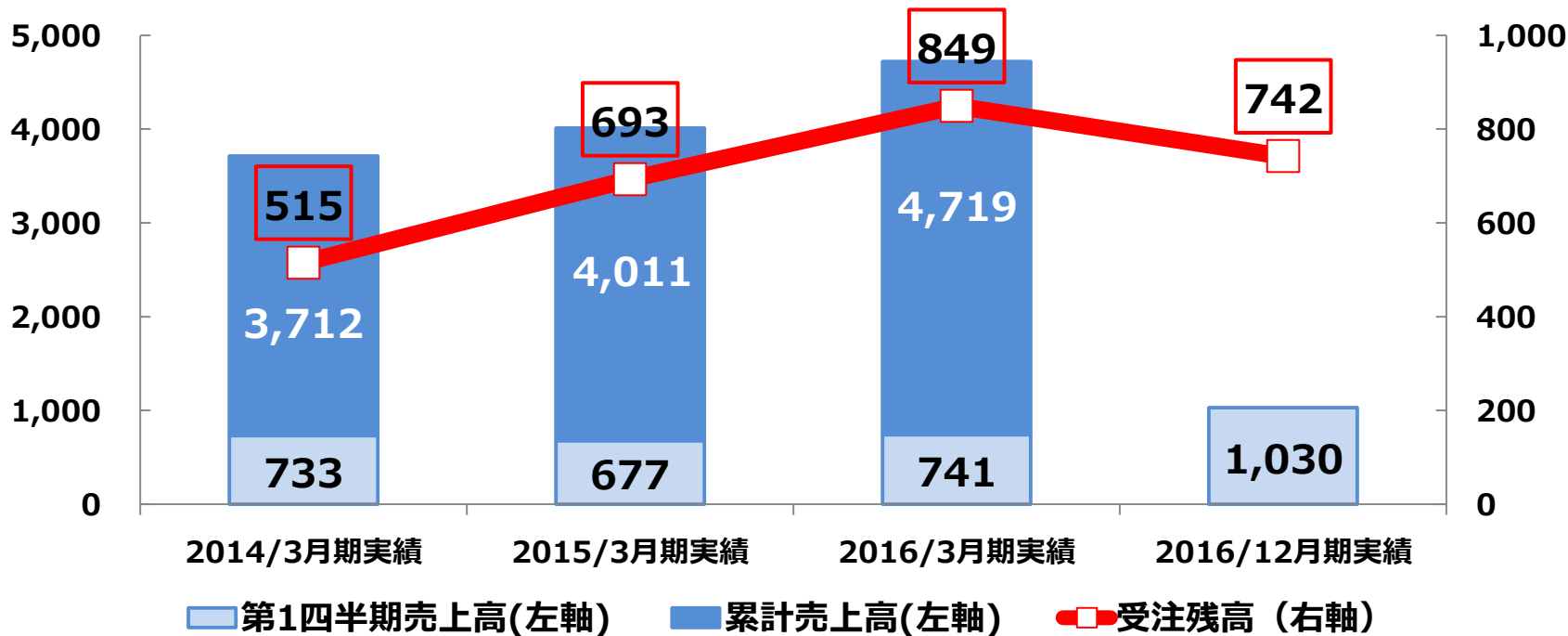
(単位：百万円)



「デジタルコンテンツ制作」の連結売上高推移

- AOI Pro.においてブランドドコンテンツやバズムービー等のWEB動画制作売上が引き続き増加
- 本年4月より(株)Quark tokyo^{クォークトーキョー}が新たにスタート。動画を中心としたオンラインコンテンツの戦略立案、企画、制作、データ解析、メディア配信までのPDCAソリューションをワンストップで提供

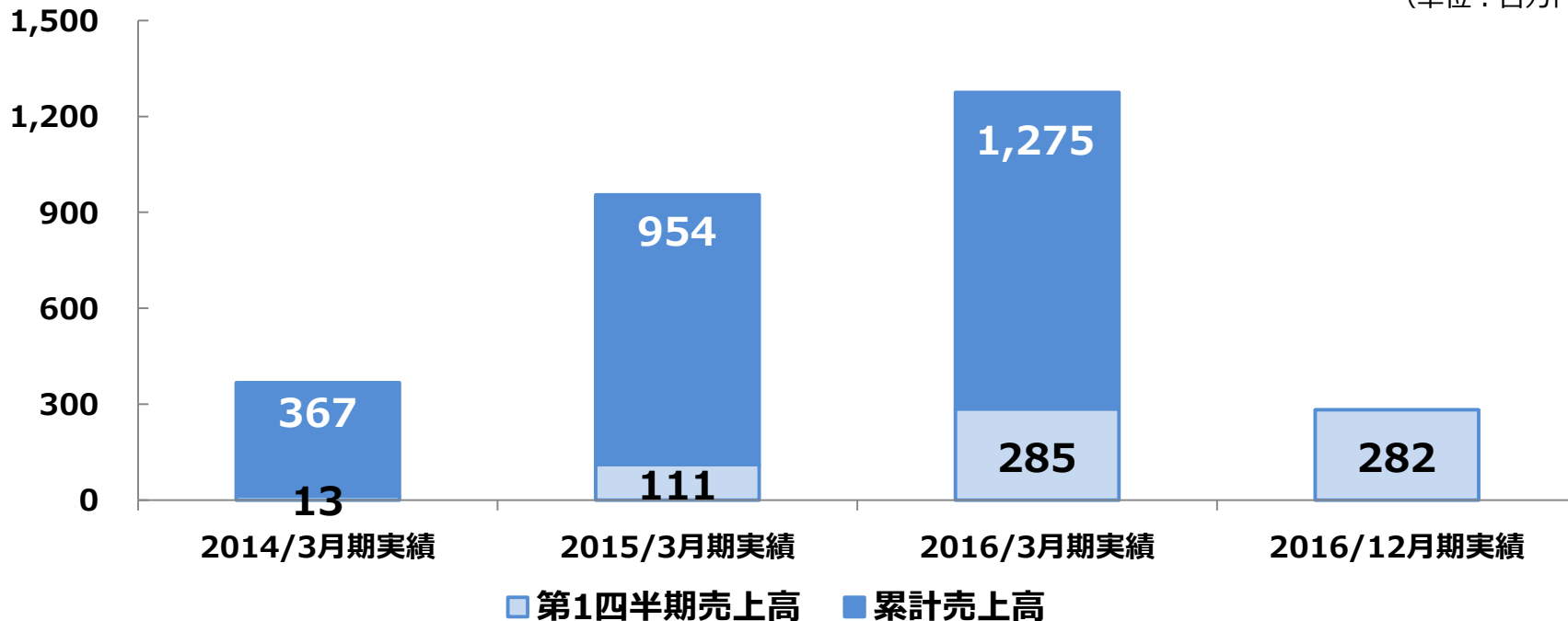
(単位：百万円)



「AOI ASIA」の連結売上高推移

- 第1四半期は前年同四半期並み
- 通期では、北京の継続的な成長が見込めるとともに、ジャカルタでのローカルプロダクションとのM&A等を検討中

(単位：百万円)



連結業績予想(上期)

- 第1四半期同様、第2四半期も前年同四半期対比ではコスト増が見込まれるものの、
広告制作事業の足元の状況を踏まえれば達成可能な水準

	2016/12月期 第1四半期 実績	2016/12月期		2016/12月期 第2四半期 必要額	前年同期比
		上期予想	前期比		
(単位：百万円、%)					
売上高	7,384	15,100	1,106	7,716	△ 127
営業利益	241	600	△ 167	359	△ 200
(営業利益率)	(3.3%)	(4.0%)			
経常利益	234	600	△ 159	366	△ 183
当期純利益	75	270	△ 116	195	△ 102

通期連結業績予想(8/10修正)

- 今回、決算期変更に伴い業績予想を修正したが、基本的には、従来の12ヶ月決算ベースのものを9ヶ月決算ベースにしたものであり、業績の基調に変化はない

	2016/3月期 実績	12ヶ月決算 2017/3月期 前回発表予想	9ヶ月決算 2016/12月期 修正予想
(単位：百万円、%)			
売上高	32,060	33,800	23,900
営業利益	2,491	2,630	1,600
(営業利益率)	7.8%	7.8%	6.7%
経常利益	2,302	2,630	1,600
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,098	1,300	780

配当予想（8/10修正）

- 今回、決算期変更に伴い配当予想を修正したが、基本的には、従来の12ヶ月決算ベースのものを9ヶ月決算ベースにしたものであり、配当性向では期初予想と同等の水準。

	12ヶ月決算		9ヶ月決算
	2016/3月期 実績	2017/3月期 前回発表予想	2016/12月期 修正予想
1株当たり当期純利益	87.02円	101.62円	60.97円
1株当たり配当額	27円	31円	19円
（うち中間配当額）	7円	7円	7円
配当性向 （連結ベース）	31.0%	30.5%	31.2%

参考資料

連結損益計算書

- 売上高・利益ともに期初の業績予想を上回って着地
- 売上高・営業利益・経常利益は過去最高を更新
- 当期純利益が減益となった要因は、前期、メディア関連事業会社清算に伴い税金負担が一時的に減少したため

	2015/3月期		2016/3月期		前期比		期初業績予想比	
	売上高比		売上高比		増減額	(%)	増減額	(%)
(単位：百万円、%)								
売上高	28,817	100.0%	32,060	100.0%	3,243	111.3%	2,060	106.9%
※ 売上原価	23,204	80.5%	25,653	80.0%	2,449	110.6%		
売上総利益	5,613	19.5%	6,406	20.0%	793	114.1%		
販管費	3,660	12.7%	3,914	12.2%	254	106.9%		
営業利益	1,952	6.8%	2,491	7.8%	539	127.6%	291	113.3%
経常利益	1,939	6.7%	2,302	7.2%	363	118.7%	152	107.1%
税引前利益	1,792	6.2%	2,193	6.8%	401	122.4%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,238	4.3%	1,098	3.4%	-140	88.6%	98	109.8%

※返品調整引当金考慮後

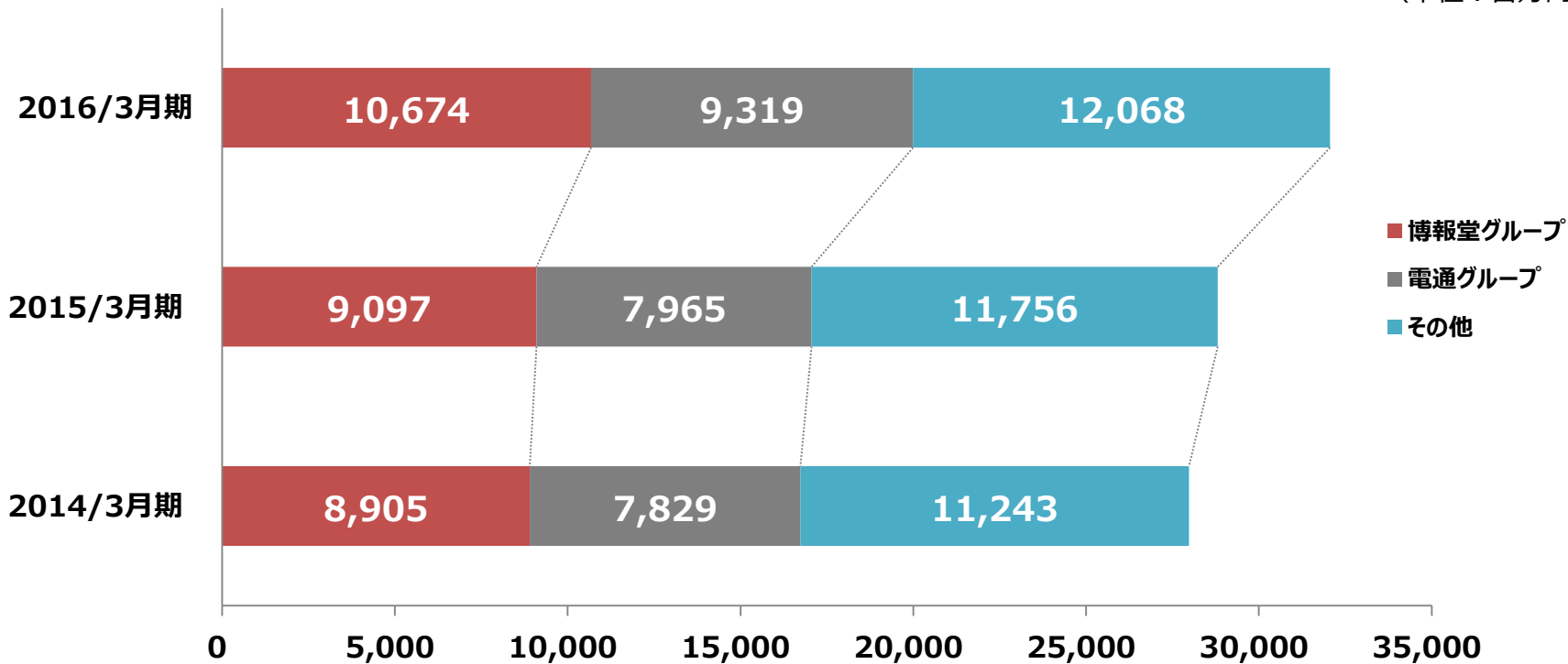
【2016年3月期】

顧客別連結売上高推移 <広告制作事業>

AOI Pro.

● 博報堂グループ、電通グループともに売上高が増加

(単位：百万円)



連結損益計算書

- 撮影スタジオ底地のリースバックに伴う地代の発生、新規事業推進や業務効率化(IT化)などの戦略的支出はあったものの、増収効果や原価管理強化等により、営業利益・経常利益は前年同四半期比増加
- 政策保有株式の一部売却による損失、子会社の事業構造改善費用の計上により、当期純利益は、前年同四半期比減少

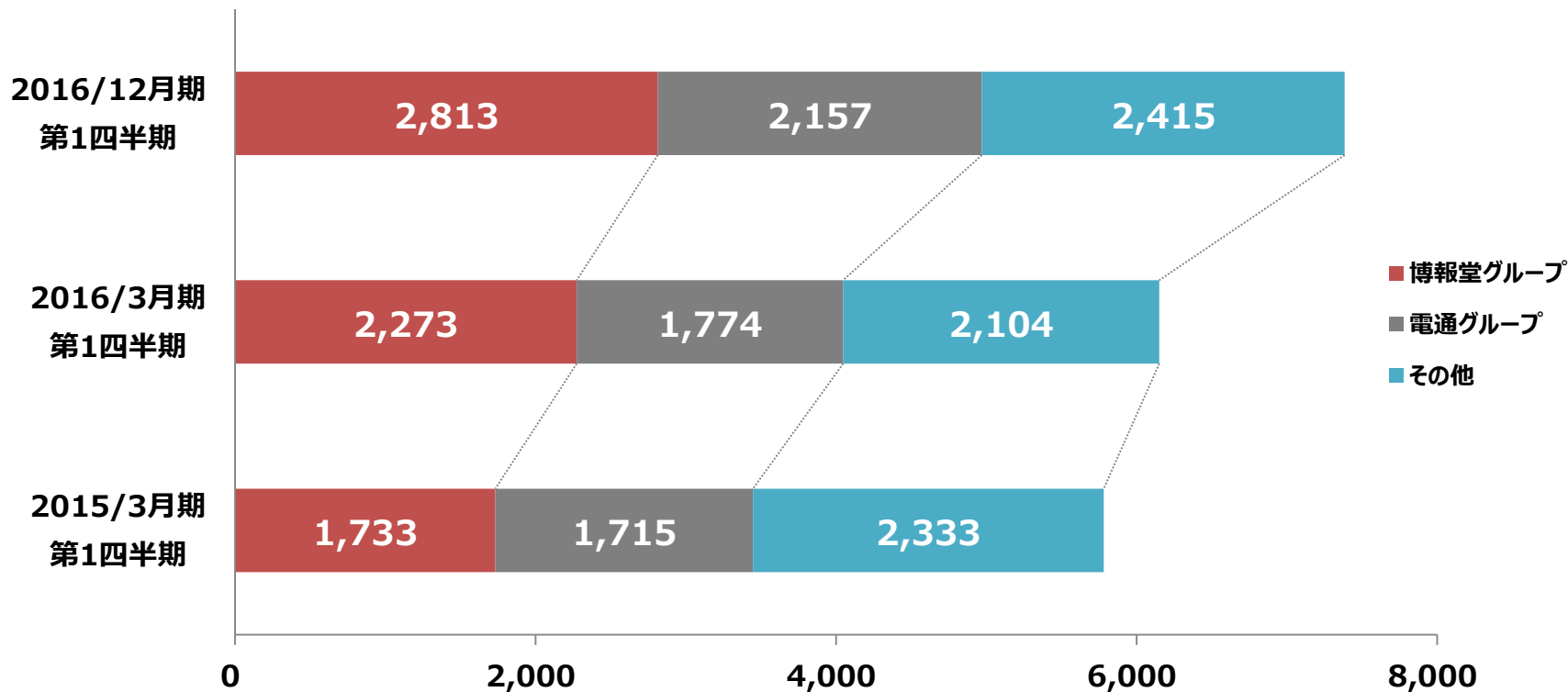
(単位：百万円、%)

	2016/3月期		2016/12月期		前年同期比	
	売上高比		売上高比		増減額	(%)
売上高	6,150	100.0%	7,384	100.0%	1,234	120.1%
売上原価	5,022	81.7%	5,957	80.7%	935	118.6%
売上総利益	1,128	18.3%	1,427	19.3%	299	126.6%
販管費	920	15.0%	1,186	16.1%	266	128.9%
営業利益	207	3.4%	241	3.3%	34	116.3%
経常利益	209	3.4%	234	3.2%	25	111.7%
税引前利益	203	3.3%	172	2.3%	△ 31	85.0%
当期純利益	88	1.4%	75	1.0%	△ 13	85.3%

顧客別連結売上高推移 <広告制作事業>

- 博報堂グループ、電通グループともに売上高が増加

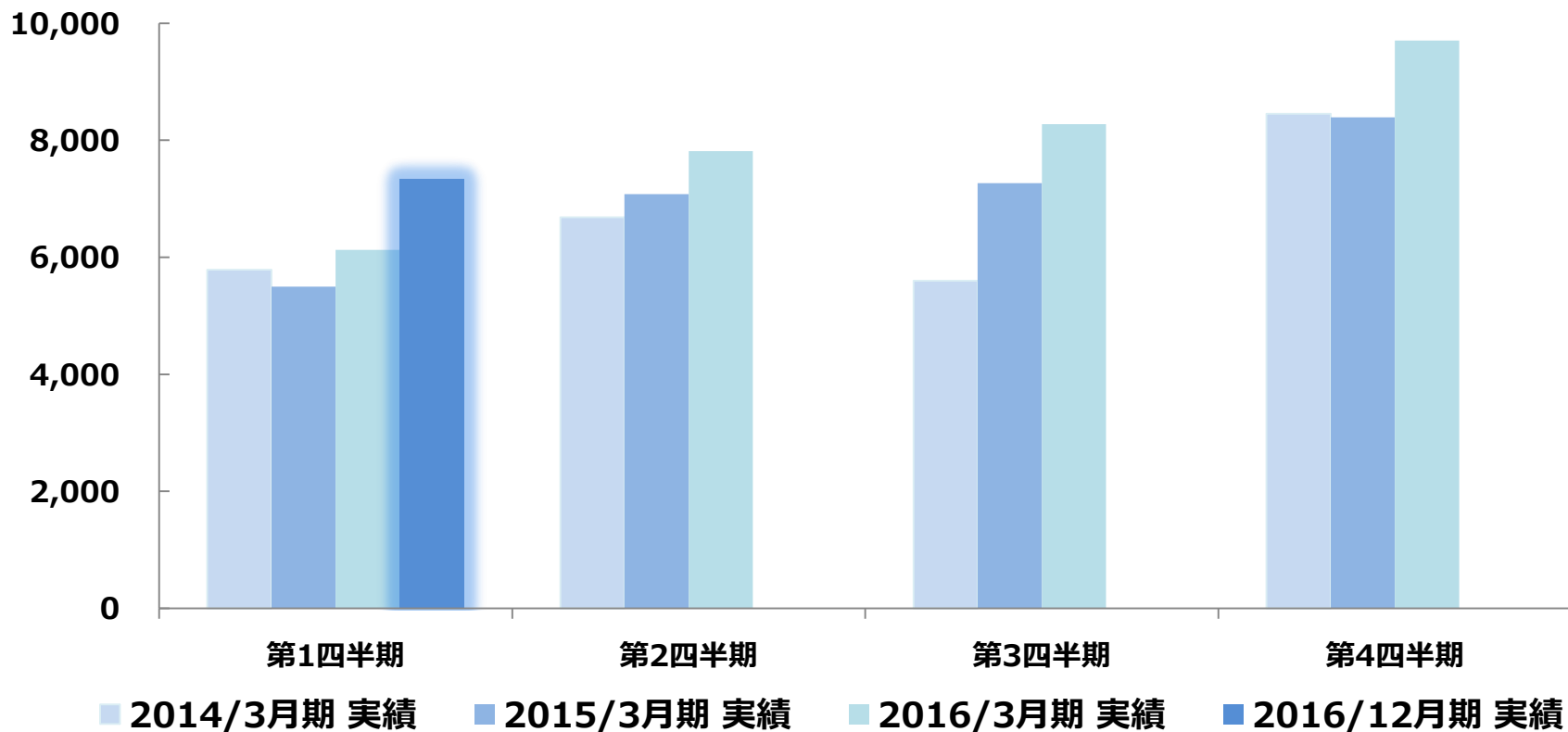
(単位：百万円)



四半期連結売上高推移 <広告制作事業>

AOI Pro.

(単位：百万円)



当資料には、当社の計画と見通しを反映した将来予想に関する記述を含んでおります。

かかる将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否等、不確実な要因の影響を受けます。

従いまして、実際の業績はこの資料に記載されている将来予想に関する記述とは大きく異なる場合があることをご承知おきください。

また当社は、この資料の開示後において、かかる将来予想に関する記述を更新して義務を負うものではありません。